

小学校第3学年 総合的な学習の時間指導案

大牟田市立天領小学校

教諭 奥 蘭 信 宏

1. 単元名 「有明海・見つけたよ海の生き物たち」

2. 単元の目標

- ・ 干潟観察会や、有明海でとれる生き物についての調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物図鑑を作成したりすることができる。また、生き物を飼育するための方法を知り、長く飼育するための環境を整え、有明海の生き物への思いを発信することができる。(知識・技能)
- ・ 有明海に生息する生き物のよさを伝えるために、有明海の生き物の特徴をいかしたゲームや図鑑等を作ることができる。また、飼育する活動の中で感じた有明海の生き物のよさを、PRをしている人の考えや、環境保全をしている人たちの考えと自分の考えをつながげながら交流し、有明海の生き物たちのよさを感じ取った自分の思いを身近な人に伝えることができる。(思考・判断・表現)
- ・ 干潟観察会を通して有明海に生息する生き物に興味をもち、身近な人に伝えたいという思いをもって生き物調べを行い、主体的に飼育したり、有明海のよさを伝えたりする活動を行うことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学びに向かう力
<ul style="list-style-type: none">○ 有明海の生き物について、生態と環境のつながりを理解できる。○ 飼育したい生き物について知り、水槽の環境を整えて飼育することができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 有明海の生き物のよさを考え、多様な生き物が生息することのできる有明海のよさやたくさんの人が環境保全に取り組んでいることを考え、身近な人に伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none">○ 進んで有明海に生息する生き物にふれあい、生息する生き物たちのよさを感じ、意欲的に生き物を最後まで飼育したり、身近な人に環境を守ることを発信したりしようとするすることができる。

4. 単元について

本校は汽水域流域に位置し、砂浜や干潟が地理的に近くに存在している。雨が多い日には校舎のまわりでもカニを見ることができ、ベンケイガニ一種のみであり、有明海の生き物の多様性を知る機会には向いていない。有明海には、ムツゴロウやワラスボなど知名度があり、商品開発されている生き物や、絶滅危惧種に指定されているシオマネキなどの生き物もいる。そこで、干潟観察会を通して有明海の生き物の多様性や希少性を知り、この生き物たちの命を次世代へとつなげていく大切さを考えることは、自然に関心をもち、生命の尊さを感じるこの期の子どもたちにとって有意義であると考えている。

本校の子どもたちにとって「海洋教育」は3年目にあたる。しかし、海についてこれまで子ども達が学んできたことは、上級生による発表の場であり、どこか架空の空論的なものでしかなかった。また、近くの海に行ったことがあるといった子どもたちは58%と低く、興味があるといった子どもたちも63%程度であった。また、有明海に生息する生き物とイメージできるものとしては「あ

さり」「ムツゴロウ」など、特に知名度の高い数種類であり、生き物が多様にいることに気づいている子どもたちは少ない。

本単元においては、これまでの「かわいいから」「おもしろいから」といった子どもたちの自己中心的な生き物への思いを、「たくさんの人たちが大切にしている生き物だから大切にしていきたい。」という思いへと高めていく。

特に本時では、有明海の生き物と関係する人々の思いを考えることを通して、自分達の生き物への思いに環境保全や生命尊重、郷土愛といった価値を付加させていきたい。

そこで、「つかむ」段階では、前時までの学習を想起し、めあてをつかませる。「つくる」段階では、各グループで飼育してきた経過を発表させることで、「生き物を大切にしたい。」という自分達の思いを捉えさせる。「高める」段階では、有明海の環境を保全している人や、有明海の生き物を売っている魚屋の方、水族館の方の行動を通して、それらの人々がもつ有明海に対する思いを考えながら交流させる。「生かす」段階では、これまでの自分の思いだけでなく、「地域の環境を守る」「生命の尊さ」「郷土の誇り」などの価値を見だし、自分の考えに付加し、自分なりの言葉で保護者に表現することができるようにさせたい。

5. ESD との関連

(主に関連する ESD の価値観)

地域の生き物をとふれ合うことを通して、たくさんの生き物たちが関わっていることに気づき、実際に自分達で飼育する活動をすることで生命の尊さを感じることができる。また、その生き物たちは人間社会と関わり合いながら生息していることに気づき、自然環境の保全を尊重することの意義を考えることができる。

(主に関連する SDGs)

14：海の豊かさを守ろう

15：陸の豊かさを守ろう

6. 学習活動の概要

全40時間 別紙

7. 本時（31／40）時間

本時主眼

- 有明海にいる生き物に対する自分達の愛着や思いと、有明海を大切にしている魚屋や水族館、地域の方々の思いを関連付けながら考える活動を通して、様々な人たちがふるさと有明海の環境を守ろうとしていることに気づくとともに、自分達にできることを考えることができる。
- 自分達の生き物に対する思いをわかりやすく発表し、環境を保全している人の思いの共通点や相違点を関連付けながら考え、生命の尊さや自然環境の保全の必要性を交流し、自分の考えを高めることができる。

8 展開

課程	学習内容	指導上の留意点・評価規準
つかむ / 話し合う ・ 関わる / ふかめる	1 前時までの学習を想起し,本時学習のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 有明海に関わる人々の思いを知り,自分達はこれから有明海とどのようにつながっていきたいかを考えよう。 </div>	○ 前時までの学習を振り返り,本時の学習の流れを確認する。
	2 これまでに育ててきた海の生き物の様子を発表し,自分達の考えをつくる。 ○ 3つの観点に沿って,飼育の様子を発表する。 《発表の観点》 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ・苦労や工夫 ・飼うことで分かったこと ・生き物への思い </div> 3 有明海を大切にしている人々と関係づけながら,これからの海について考えるとともに,これから自分がどのような思いを持つことが必要かを話し合う。 ○ 海に関わる人々が海とどのように関わっているのかを話し合う。 ①有明海の生き物を取り扱う魚屋(夜明茶屋) ②柳川水族館の方 ③地域の方々(GT) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 私たちの海にはたくさんの人たちが関わり合っていて守られているので,私たちにできることを考え,行動していくことが大切。 </div> 4 本時学習を振り返り,次時の見通しを持つ。 ○ 本時学習で発表を聞いたことや,海の問題について考えたことを振り返り,カードに書く。 ・海とは,多くの生き物を育て,命をつなげていく場所なので,大切にしたいな。 ・生き物を飼うことに夢中だったけど,海のすごさも伝えていこう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> たくさんの方が有明海を守っているので,自分達も有明海を守れるような行動をこれからしていくことが大切。 </div>	○ 図鑑などで調べるだけでは分からなかった海の生き物の良さや,生活の様子を友達に分かりやすく伝えるために3点の観点をもとに発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分達で調べたり飼育したりしたことをもとに,自分たちの思いや考えをわかりやすく伝えることができる。(発表・つぶやき) <p style="text-align: center;">【コミュニケーションを行う力】</p> </div> ○ 有明海に親しみ,守る意識を高めるために,GTの話の聞いたり,海に関わる人たちの思いを提示したりする。そして,私たちの有明海は多くの方が関わり合いながら守られていることに気づかせ,これからどのような思いを持ちたいかを話し合わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 生き物の面白さや愛着だけでなく,生き物の環境を守る取組や保全などを関連付けながら考えることができる。(話し合いの様子) </div> ○ これからどんなことを大切にしていきたいかを振り返り,今後の自分の考えを創るために,環境を破壊された海と豊かな有明海の動画を見せる。

○めざす子どもの姿

干潟観察会で興味を持った有明海の生き物について調査活動を通して、干潟の楽しさを感じたり、有明海の生き物に対するの関心を高めたりする。次に、生き物のよさを図鑑や発信する活動を通して、本物とふれ合うことの価値を見直し、生き物を飼育するために、さらに調べ学習を行うことができる。さらに、環境保全をしている人々や有明海の社会的事象、絵本と結びつけながら、生命尊重と環境保全を関連させながら自分なりの思いをもつことができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合的な学習の時間	課題設定			課題追究					行動・発信・振り返り			
	<p>干潟の楽しさを伝えたい、生物を調べたいして、「天領小海まつり」を開こう！</p> <p>○干潟見学事前学習会を行い、生息する生き物や、安全について学習をする。【クリティカルシンキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海には自分達が知らなかった生き物たちがたくさんいるね。 ・山を守ることは海を守ることにつながるんだね。配時② <p>○干潟観察会に参加し、干潟で遊ぶ楽しさを感じたり、有明海に生息する生き物についての関心を持つたりする。【コミュニケーション力】</p> <p>◇当たり前に見ていた海だけど、たくさんの生き物がいたことに気づく。配時④</p> <p>○有明海の干潟に棲む生き物や、それぞれの形態・生態の特徴について、GTから話を聞いたり、図鑑で調べたりする。【コミュニケーション力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に見ることができなかった生き物は図鑑やインターネットで調べてみよう ◇協力して図鑑やインターネットを用いて調べることができる。配時④ 			<p>「天領小海まつり」の準備をしよう！</p> <p>○生き物について調べたことを画用紙にまとめ、有明海の生き物図鑑を作成する。【コミュニケーション力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハクセンシオマネキの雄と雌の特徴を分かりやすく描きたいね。 <p>○調べた生き物の特徴をいかしたゲームや工作物を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の生き物でつりゲームを作るのはどうかな。配時⑥ <p>「天領小海まつり」を開催しよう！</p> <p>○天領小の児童を招待し、「天領小海まつり」を開催する。【コミュニケーション力】</p> <p>◇自分達が調べたことをもとに、発表物を作り、生き物のよさを紹介しながら発信することができる。配時⑥</p> <p>学習を振り返ろう！</p> <p>○学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値と課題を実感する。【クリティカルシンキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有明海の生き物を実際に見たり、触ったり、捕まえたりできて楽しかった。海が好きになったね。 ・つりゲームではなく、実際に本物の魚を釣ってみたな。配時② <p>◇2年生のアンケート結果と、自分達のアンケート結果から、話し合い、海祭りの課題をつかむ。</p> <p>本物の生き物を飼育しよう！</p> <p>○生き物を飼うための環境を調べ、飼育する活動を通して、有明海の生き物に愛着をもつ。【システムズシンキング】</p> <p>◇飼育する中でうまくいかなかったことをもとに、水温や気温、水質・水量などのデータに即した話し合いをし、望ましい飼育方法を模索する。</p> <p>◇自分達だけで解決できない問題について、関係機関に質問することができる。配時⑥</p>					<p>生き物と環境をつなげよう</p> <p>○環境保全に関わる人や郷土の魅力を発信している人、有明海の干拓事業などの社会的事情、絵本をなどと関連させながら、生き物と境保全の価値をつなげて考える。【システムズシンキング】配時②</p> <p>「天領小海まつり」を開催しよう！</p> <p>○課題をもとに、天領海祭りを再計画し、みなと小学校の子どもたちと環境保全と有明海の生き物の多様性を交流することができる。【コミュニケーション力】配時⑦</p> <p>学習を振り返ろう！</p> <p>○学習の振り返りを行い、自分たちの学習の価値を実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物図鑑を読んでくれている人がいて、うれしかった。質問にも答えることができたよ。 ・有明海の生き物を実際に見たり、触ったり、捕まえたりできて楽しかった。海が好きになったね。 ・つりゲームではなく、実際に本物の魚を釣ってみたな。配時① 			
	<p>○学習活動</p> <p>◇評価</p> <p>【資質・能力】</p>											